

I 研究開発の概要

1 研究テーマ 新教科「地球未来科」の設置

2 研究開発課題

「国際的視野で地域を捉える力」、「地域の課題を国際的視野で解決する実践力」および「英語をツールとしたコミュニケーション力」をグローバル社会に生きる資質・能力とし、それらを育むために地域特有の文化・歴史・自然（農業）と国際社会の動向を教材として取り入れながら、村おこし・町おこし・国際交流や様々なボランティア活動の実践を学び、それらを軸として英語の学びやその他の教科の学びを生かせるよう関連づけをした「新教科」を設定し、その系統的な教育課程、指導方法、評価に関する研究を小中高12年間通して行う。

3 研究の概要

小学校では農業やグリーンツーリズムなどの地域の課題・地域の実践を教材として、中学校では小学校での学習を発展させ、県内外における課題・実践を教材として課題解決的な学習活動及び体験的な学習活動を行い、単元及び教材、学習活動、学習評価を研究する。さらに、高校ではローカル、グローバル双方の視点から地球全体をとらえ、社会の一員として顕在化する課題、潜在する課題等についてその解決方法を論理的に考え、主体的に行動することを促す単元及び教材、学習活動、評価について研究する。この新教科を軸として英語及び他の教科の学びを効果的に関連づけた系統的な教育課程、学習活動、学習評価について実践研究をすることにより、国際社会で必要とされるコミュニケーション力や論理的思考力、課題解決力・実践力を持った児童生徒の育成、「村おこし・町おこし・起業・国際交流・ボランティア活動」等において地域や社会に貢献できる人材の育成を目指す。

4 教育課程の特例

小中高一貫教育を活かし12年間を通した新教科の設定

- ・小学校では、生活科・総合的な学習の時間から時数を充てる。
- ・中学校では週2時間、年間70時間、高等学校では週1時間、年間35時間を設定し、総合的な学習の時間から時数を充てる。

5 教育課程の内容

新教科「地球未来科」では12年間を4つのステージに分け、KEY STAGEのつながりを意識した評価規準を作成し、一つの教科として小中高と積み上がっていくように指導計画を立てた。

KEY STAGE 1・2では季節や農産物など身の周りにある地域素材を題材とし、KEY STAGE 3ではグリーンツーリズム体験や他地域との交流・比較、KEY STAGE 4では外国人留学生を招いた地元ツアーガイドや幼稚園児・小学生向けのゲストティーチャー活動など、体験的かつ課題解決的な学習活動を各校で実践した。また、英語をツールとしたコミュニケーション力を育成するために、小学校段階では地球未来科のカリキュラム内に配当時間を設け、ALTによる授業も活用しながら英語素地を育てる実践を行った。高校では地球未来科を基盤とした他教科との横断的扱いや分掌間の連携により、学校全体で新教科に関わる取組を行っている。評価については、ポートフォリオ評価、ルーブリック評価を実施し、ポートフォリオについてはKEY STAGE毎に作成した様式を統一して活用している。

6 「地球未来科」の評価規準

◆目指す児童・生徒像

社会の諸問題に関わろうとする意欲を持ち、論理的思考とコミュニケーション力を駆使し、グローバル社会を主体的に生きようとする児童・生徒の育成

◆新教科での到達目標の設定について

①	「国際的視野で地域を捉える（関わる）力」 地域のひと・もの・ことに関わったり、地域と世界を比べたりしながら視野を広げ、多様な情報の中から、地域の良さや課題を見つけることができる。
②	「地域の課題を国際的視野で解決する（工夫する）力」 学習課題を設定し、必要な情報を収集・選択・活用しながら解決の方向性を導き出し、自他の役割を考えながら協力して主体的に行動できる。
③	「英語をツールとしたコミュニケーション力」 自他の違いに気づき、相手に適切に伝えたり、相手の言葉を的確に理解したりすることにより、言語や国籍を超えて人間関係を築いたり、国際的視野で思考したりすることができる。

◆各 KEY STAGE の評価規準

	捉える（関わる）力	解決する力	英語をツールとした コミュニケーション力
KEY STAGE 1 小1, 2年	○身近なひと・もの・ことに意欲的に目を向け、自分とのつながりに気づくことができる。	○くり返し試したり確かめたりしながら、気づいたことを言葉や絵で表して交流し合い、比べ合うことができる。	○色や生き物など学習と関係のある単語を歌やチャンツを通して楽しむことができる。 ○簡単な挨拶ができる。 ○遊びや学びの中にある素材をもとにALT等との交流を通して他国との違いに気づくことができる。
KEY STAGE 2 小3～5年	○身近なひと・もの・ことに主体的に関わり、新しい知識や価値を探ることができる。	○情報・資料収集した内容を、思考ツールを活用して整理分析し、調べたことを伝えたい相手に分かりやすく伝えたり、比較し合ったりすることができる。 ○活動を振り返り、素材を活用した新たな活動を想起・実行できる。	○家族や曜日など学習と関係のある単語を歌やチャンツ、ゲームを通して慣れ親しみながら使うことができる。 ○簡単なやりとりができる。 ○学校や地域のよさをALT等との交流を通して気づき、他国と自国の文化の相違点を知ることができる。
KEY STAGE 3 小6～中2	○身近なひと・もの・ことに関わりや他の地域との違いから、主体的に課題を発見できる。	○追究するために、情報・資料収集資料活用をして分かりやすくまとめ、相手を考えて効果的に伝えたり、比較し合ったりすることができる。 ○活動を振り返り、新たな課題設定ができる。	○自分のことや地域の特徴や魅力を簡単な英語で伝えることができる。 ○国際的な情報をもとに、ALTや留学生等との交流を通して、多様な視点で考えていくことができる。
KEY STAGE 4 中3～高3	○世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や課題を見つけ、主体的に社会参画できる。	○追究するために、情報を取捨選択し他者の意見や主張を評価したり、建設的に評価したりし、多面的なものの見方や考え方を身につけることができる。 ○活動を振り返り、国際的視野に立った問題の解決のために自分と地域社会をつなげて考えることができる。	○留学生や観光客等との交流を通して簡単なQ&Aができる。 ○ALTや留学生等と国際的視野（柔軟で多面的な思考）で協働プランを実践できる。